

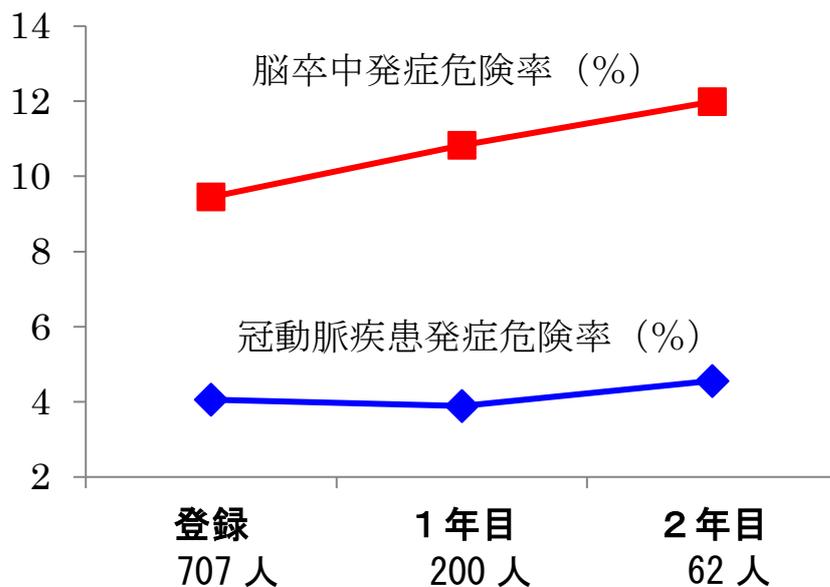
◆ 生活習慣病センターだより

登録時から2年目までの冠動脈疾患と脳卒中発症危険率（%）

青森労災病院 院長 玉澤 直樹

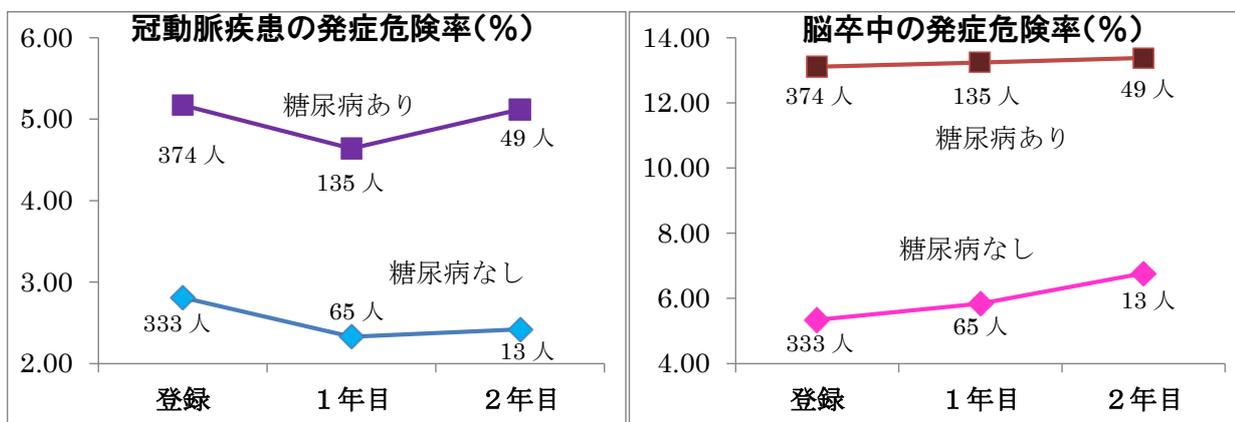
当院の生活習慣病センターに登録され、経過観察中の患者さんは3年目に入りました。令和元年3月末までで、登録患者707人（糖尿病なし333人、糖尿病あり374人）となり、1年目経過200人、2年目経過62人、3年目経過15人となっています。

登録患者さん個々の冠動脈疾患（心筋梗塞、狭心症）と脳卒中（脳梗塞、脳出血）の10年以内発症危険率（%）2年目までの経過を追ってみました。



発症危険率の算定には、年齢も入りますので年々冠動脈疾患（4.1→3.9→4.6%）、脳卒中（9.5→10.8→12.0%）の発症率が増加する結果となっています。

次に糖尿病のある患者さん(374 人) とない患者さん(333 人) に分けて同様に発症率を検討してみました。



糖尿病で加療されている患者さんは体重、血圧、脂質、血糖を包括的に治療するよう心掛けられています。糖尿病患者さんの冠動脈疾患の発症危険率は、5.2→4.6→5.1%、脳卒中は13.1→13.2→13.4%と2年目までの経過で加齢の影響も考えても、上昇していないようです。これは当院の糖尿病内分泌内科で治療がうまくいっていることの表れだと思います。

今後もこのような評価を5年間を目標に評価して参ります。